

# 令和4年度 学校関係者評価結果報告書

学校名	成田市立豊住小学校
-----	-----------

## 1 学校教育目標

ふるさとを愛し 共に未来を拓く 児童の育成

学校関係者評価委員	
鈴木 公子	日暮 義之
織笠 勇次	武藤 幸雄
宮田 幸世	

## 2 本年度の重点化された具体的な目標

- ・小規模特認校の充実を図る
- ・全職員で全校児童を担任している意識を高める
- ・一人一人のよさをいかした全職員で学校運営意識を高める
- ・課題を共有し共通理解・共通行動を徹底する
- ・業務改善の推進による働き方改革を実践する

## 3 自己評価結果に対する学校関係者の評価・意見等

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策	学校関係者評価	
					自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ
家庭・地域との連携	学校は、教育方針を適切に伝えている。	93.7%の保護者が肯定的な回答をしている。	A	PTA総会や行事、学校日より、ホームページ、地区の回覧等、学校の様子を伝えると共に、教育方針の下、教育活動が進められていることを伝える。	A	A
	授業や行事等を参観する機会や、保護者会・個人面談等、家庭と話し合う機会を十分設けている。	93.6%の保護者が肯定的な回答をしている。	A			
学校関係者による意見等	児童一人一人を大切にされた教育活動が行われていると感じています。小規模特認校として、メリット、デメリットがそれぞれあり、デメリットの部分ではPTA活動等の課題も大きいと思われます。他の小規模特認校と情報交換をすることで、今案を打開するヒントが得られるのではないのでしょうか。当然、地域によって特性が異なりますが、豊住小でできることを先生方と保護者、地域住民で話し合いをしていくことが何より大切だと感じます。また、ボランティアを募り、いよいよ畑作り等新たな活動が始まる予定とのことで、地域の方々の協力が多く得られて児童の活動に有効活用できるよ取組だと思えます。					
学習指導	学校は、基礎学力向上のための取組を行っている。	92.1%の保護者が肯定的な回答をしている。	A	基礎学力の定着について児童の評価は95.9%と高いので、取組を継続する。家庭学習については、児童の評価も下がっているため、ICTを活用する等具体的な手立てを講じる。	A	B
	学校は、家庭学習が習慣化するための取組を行っている。	85.8%の保護者が肯定的な回答をしている。	B			
学校関係者による意見等	児童一人一人を大切にされた教育活動が行われていると感じています。どの学年も子どもたちと先生方が信頼関係の基に活動していることがわかります。多動傾向のある児童に対する対応については、教育方針を明確にし、教師間で共有することが大切だと思います。先生方が自信をもって教育活動に取り組まれることを願っています。					
生徒指導	学校は、子どもがきまりや約束を守って生活できるように計画的・継続的に指導を行っている。	95.2%の保護者が肯定的な回答をしている。	A	きまりや約束については、児童の評価も93.4%と高いので、継続した指導をする。いじめについては、児童の評価も97.9%上がったため、継続して共通理解と共通行動を回っていき、生徒指導の機能を生かした授業の取組と道徳科や特別活動の充実を図る。	A	A
	学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。	95.2%の保護者が肯定的な回答をしている。	A			
学校関係者による意見等	区域外から通学してくる児童については、地元の学校に通いにくいそれぞれの事情を抱えている児童もいると思いますので、より丁寧な関わり方が必要だと思われます。個々の実態、ニーズの把握、そして指導方針を立てるなど、保護者と共に行うことが信頼につながるものと思います。					

## 4 次期の重点目標と改善のための方策

- 地域とともにある学校づくりの推進
 

小規模特認校として3年目を迎えるため、さらに特色ある教育課程を編成していく。学校運営協議会での話し合いで、地域連携全体計画を提案しボランティアの登録依頼を行った。豊住小未来プロジェクトとして教科横断的な教育活動を実施し、定期的に学校教育方針を伝える場を設けたり、体験的な活動を取り入れたりしながら、学校・家庭・地域が連携して学校経営を進めていく。コミュニティスクールの仕組みの定着を図り、地域の物的・人的資源を有効活用して教育力の向上を推進する。
- 小規模校の利点を生かした教育活動
 

少人数のよさを生かした授業形態や複式的な学習を意図的に取り入れて、全職員での指導体制を充実していく。また、発達段階に応じたキャリア教育の充実を進める。さらに、一人一人の特性に応じた指導・支援を行い、連続性のある多様な学びの場をつくり、組織的な支援を充実する。
- 交流学习の推進
 

複式的な学習の中で、児童と教師、児童と児童、教師と教師の関係を深め、児童理解と共通指導を進めることで、児童の主体的な学びの力を育成する。異学年交流や縦割り活動、他校との交流活動を充実し、児童が自ら課題意識をもって多様な見方・考え方を働かせることができる学びの場をつくる。